R6実施報告書（1年次）

鳴門市瀬戸中学校〔協力校：明神小学校〕

1. 実践研究テーマ

・幼小中一貫教育の仕組みの中で、１１年間を見通し、学びの連続性および指導の一貫性を持たせた教育活動をどのように実践するか。（自立型の学習者の育成・学びの面白さを実感する授業づくり・家庭との連携）

2. 取組の内容（協力校等との連携等を含む）

（１）教員全員によるアンケート結果の分析と課題の共有
- 教員組織として生徒や学校の課題解決に向けて、自らの学習指導の分析、改善及びチームとして実践の方向性を共有
- 研修やメンター制を通して全教職員が伸ばし合う組織文化の構築

（２）校内研修における具体的実践内容の研究
- 学びの面白さや成長を実感する授業の創造
- つながり（教科と教科、学びと社会生活）を意識した授業実践
- 教師主導から生徒を主語にした授業への転換

（３）具体的実践事例
- 定期テストの廃止→単元テスト・総合実力テスト
- 教科横断的な授業実践（理科×図書館×総合）
- AIドリルの日の設定（全学年朝学習時・隔週木曜）
- おはよう！メッセージの取組（全学年朝学習時・隔週木曜）
- 視写チャレンジの取組（全学年・毎週火曜）

（４）幼小中一貫教育における連携の推進
- １１年間を見通した学習プランの構築（幼小中共有）
- 瀬戸中オープンスクールの複数回開催（学びの連続性の体験）

課題解決に向けての研修

視写チャレンジの様子

理科研究授業の様子

3. 取組の成果

○ 教職員の変容

（１）若手教員の成長
- 実践意欲の向上（研究授業への挑戦）
- 単元の価値付けの力の向上（目的指示）
- ICT活用力の向上（教え合い学び合い）

（２）日常的に伸ばし合う教職員組織の醸成
- 相談できる雰囲気づくり（瀬戸輪COME）
- グループ担任制のさらなる推進
- ベテランから若手への指導方法の継承

○児童生徒の変容

（１）アンケート結果や生徒観察より
- 自分の成績に満足のいく生徒の増加
- 表現力（プレゼン力）の向上
- 誰かのために貢献しようとする姿

（２）学びに向かう力の醸成
- 単元の目的を理解し意欲的に授業参加
- 次の授業内容に興味を持つ生徒の姿
- 家庭学習でAIドリルを活用する生徒

4. 2年次に向けての取組予定

・子どもをあきらめさせない学習指導の追求（「自己調整」をしたいと思う授業づくり）
・学習内容の定着のためのICT機器の活用（めあて・比較・対応・振り返り等の板書の可視化）
・基礎基本の習得をめざした家庭学習の充実と保護者との連携（ノートとタブレットの併用）